

あしよろ・ハードサポート通信

朝晩の冷え込みが厳しくなりましたが、積雪はまだで、おだやかな秋が続いています。今年4月から酪農女性勉強会を開催している中で、参加者からのリクエストを受けて企画した町内酪農場の視察。総勢20名超が集まりました。

◆ 佐藤和弘牧場



佐藤牧場と言えば、とにかく牛舎環境がキレイ！訪問したことがある方なら、あの整然とした清潔な牛舎周りが思い浮かぶと思います。和弘さん亜樹さん夫婦とご両親の4人で、総頭数140頭を飼養しています。

平成24年に新築した70頭繋ぎ牛舎で放牧を取り入れた飼養管理をしており、視察時は牛たちはパドックに出ていました。



牛床幅はゆったり130cm、長さ180cmで2枚目の写真の通り、牛床には麦稈と殺菌目的の石灰が丁寧にしっかりと敷かれ、カウトレナーが1頭ずつの体高に合わせてこまやかに調整されていました（赤線はカウトレナーの高さ）。



佐藤牧場では今年、16台の換気扇を牛舎に設置しました。基本的に牛は放牧地で過ごすので、あまり換気扇の必要性を感じていませんでしたが、いざ設置してみると、搾乳時の牛と人間の暑熱ストレスが大きく緩和され、サシバエに困らなくなり、牛の出入りがスムーズに、湿気とにおいが和らいだ、など、たくさんのメリットを実感できたそうです。

ほかにも、積極的な草地更新を通して粗飼料品質が改善され、乳生産や乳牛の健康に手応えを感じていることや、古い建物を作業者が使いやすいように改造されている旧繋ぎ牛舎の哺育育成舎の様子と子牛の管理など、印象深いお話がたくさんありました。

◆ フロンティア牧場



平成29年に搾乳ロボット4台が稼働したフロンティア牧場では、山下社長と、搾乳部門の麻生場長からご説明いただきました。

一般的な牧場では1日2回搾乳が主流ですが、搾乳ロボットでは頻回搾乳が可能で、これが上手くいくと、効率よく乳量UPを見込めます。フロンティア牧場のロボット群平均搾乳回数は3回で、乳量は40kgに達していますが、乳牛たちは決して無理している気配ではなく、安楽性の良い牛舎内でゆったりと寝そべり、穏やかに過ごしていました。

大きな牛舎や搾乳牛頭数、搾乳・給餌・エサ押し・除糞などの作業が自動化されている様子から、酪農には色々な形態があることを実感できたと思います。

パソコンで乳量、活動量、反芻などの記録が管理されている中で、授精師でもある麻生場長からは、データと牛とを照らし合わせて自家授精する中で、牛たちの授精適期を見つけられたというお話がありました。自動化が進んでも、牛の状態を見て「判断」するのは人間の大事な役割だと再確認できました。

うちでもできそうなことがあった、良い刺激になった、明日からまたがんばる！など、前向きな感想を聞かせていただけて良かったです。ご夫婦での参加もうれしかったです。佐藤牧場さん、フロンティア牧場さん、どうもありがとうございました。（久富聡子）

.....
 ・ **11/26（月）にJAあしよ酪農勉強会**を開催します。カナダ・アルバータ大学の
 大場真人教授に、乳牛栄養と、北米の酪農でのトピックスについてお話いただきます。

場所：JA 2階会議室 ☆定員70名、町内生産者さん無料（町外2,000円）

時間：10:30～12:00 **「分娩移行期の栄養管理」**

12:45～14:15 **「TMR・分離給与・放牧でデンプン飼料を使いこなす」**

施設型、放牧型、飼養形態に関わらず、多くの組合員さんにご参加いただきたいです。
 勉強会についてのお問合せ、お申込みは営農部佐藤係長まで。お待ちしております！！